

重症化怖い

高度医療後回し

移植経験者 コロナに不安

青山さん(青森出身)「理解・関心を」訴え

青森市出身の青山竜馬さん(41)は大阪府が代表を務める国際移植者組織「トリオ・ジャパン」(東京)が、臓器移植経験者を対象にコロナ禍で感じることを聞き取ったアンケート結果をまとめた。多くの移



娘・環さん(左)の成長を感じながら、移植医療の重要性を呼び掛ける青山さん(青山さん提供)

植経験者は「新型コロナウイルスに感染したら重症化しやすいので不安」と回答した。青山さんは「臓器移植を受けた人や移植を必要とする人への理解と関心を持ち続けてほしい」と語る。

アンケートは今年4月から5月まで実施。全国の関係者106人に配布し、47人が回答した。移植部位別の割合は心臓が約6割、肝臓が約3割だった。

移植を受けたことについて「生きていくだけで幸せ」「失いかけた人生を謳歌し

ている」など感謝する言葉が目立った。一方、「10、20年後に再移植、再々移植になる可能性を考えてしまふ」との声もあった。

コロナ禍での生活について「感染症が怖いので基本、外出しない」と回答したのは12人(26%)。「ワクチンを接種しても大丈夫なのか不安」との声や、「(コロナ治療が優先され)移植医療が後回しになっている。待機している人はつらいだろうと心配になる」との意見もあった。

青山さんによると、一時期、大阪大学病院の集中治療室(ICU)病床が全てコロナ治療に使用されたため、全国から集まる移植を必要とする患者が、臓器提供者が現れても移植を受けることができなかったという。「多くの患者が、命ぎりぎりの状態で時間を過

し、大変心細い思いをしたと思う」と青山さん。「移植医療のような高度医療が後回しにならないように配慮してほしい」と語る。

青山さんの娘・環さん(7)は、生まれつきの重い

心臓病のため、5年前に米国で心臓移植を受けている。青山さんは「移植手術が成功し、娘の成長を見守られるのは本当にうれしい。普通の生活があったらいい」と話す。(菊台賢)